

山中 寿



医学博士、日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員、日本内科学会認定医・指導医・評議員、日本痛風・尿酸核酸学会副理事長。

1980年、三重大学医学部卒業、三重大学医学部第3内科にて研修。
1983年1月、東京女子医科大学付属リウマチ痛風センター助手、
1985年2月～1988年1月、米国 Scripps Research Institute に留学、Dennis A. Carson 博士の下で多くの研究成果を残した。

19882月に帰国、東京女子医科大学付属膠原病リウマチ痛風センター講師、助教授を経て、2003年、東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター教授、2008年8月、同所長。2018年6月、東京女子医科大学医学部膠原病リウマチ内科学講座・教授・講座主任に就任の後、2019年4月末で東京女子医科大学を退職した。2019年5月から医療法人財団順和会山王メディカルセンターに勤務し、7月から副院長、リウマチ・痛風・膠原病センター長、国際医療福祉大学リウマチ・膠原病内科学教授に就任。

主な受賞歴に、日本痛風・核酸代謝学会学会賞（2000年）、日本リウマチ学会賞（2012年）がある。早くからガイドライン作成に関与し、高尿酸血症・痛風治療ガイドライン第2版（2010年）、関節リウマチの診療ガイドライン（2014年）の作成委員長を務めた。日本リウマチ学会では、2009年から計4期8年間理事を務め、各種委員会の委員、委員長を歴任。本研修合宿の運営に携わる臨床研究推進委員会の初代委員長である。2018年4月の第63回日本リウマチ学会総会・学術集会においては会長を務め、「夢を語ろう」と題した会長講演を行い、臨床研究の重要性と問題点を語った。

東京女子医科大学においては、2000年に日本のリウマチ領域のコホート研究の先駆けである IORRA コホートを、このコホートから現在までに140編以上の英文論文を発表した。また2015年には多施設共同研究 CORRONA Japan を立ち上げるなど、日本のリウマチ学の臨床研究推進に貢献してきた。さらにフェブキソスタットをはじめ多くの新薬の開発に携わり、多くの生物学的製剤の市販後臨床研究をリードしてきた。

教育面では、東京女子医大において診療参加型学生実習の責任者を務めるなど多くの学生、研修医の指導に携わる一方で、東京女子医大膠原病リウマチ痛風センターのメンバーと共に IOR セミナーと題するセミナーを年1回開催し、全国の若手リウマチ医のレベルアップに努めてきた。また、不定期ではあるが「山中私塾」と銘打ったマネジメント研修、自己研鑽セミナーを開催し、医師、メディカルスタッフのみならず製薬会社メンバーにも積極的に啓発活動を行っている。